聴覚障がい教育支援情報紙
みみネット
No318　令和４年３月14日
発行：大阪府立中央聴覚支援学校
聴覚支援センター

-Index-

映画「ヒゲの校長」公開
那須英彰さん独占インタビュー
オンライン授業の実際
（Google meet、Google ドキュメントの活用）
チャレンジ！発音指導⑨

映画「ヒゲの校長」

手話教育の普及に努め“手話の父”と呼ばれた、高橋潔（本校６代目校長）の生涯を描く物語、「ヒゲの校長」が、今秋に公開される運びとなりました！

映画の主人公は、本校（旧大阪市立聾唖学校）の６代目校長である、高橋潔校長です。漫画「わが指のオーケストラ」（山本おさむ著／秋田書店）の主人公としても有名ですね。

高橋潔校長は、昭和８年全国聾唖学校校長会で、当時の文部大臣から「本日をもって聾唖者の国語は口話法なり」との訓示がなされたときに、口話万能主義に異を唱え、口話に適する者には口話法にて、適さない者には手話法のように、一人ひとりの子どもたちの実態に応じた適性教育（ORA システム）を提唱しました。その思いは、現在まで途切れることなく、本校に引き継がれています。

一人ひとりの子どもたちの実態に応じた教育を！

本作は、谷進一監督による手話映画の最新作となっています。本校教員の堀谷首席のほか、長きにわたり中学部で教鞭に立っていた前田浩先生（大阪ろう就労支援センター理事長）も、出演されています。また、NHK 手話ニュースキャスターでお馴染みの那須英彰さんが、全日本聾唖連盟初代連盟長・本校教員の藤本敏文先生の役を熱演されています。

NHK 手話ニュースキャスター

那須英彰さんに、ききました！

映画の公開に先立ち、NHK 手話ニュースキャスターとしてご活躍されている、那須英彰さんへの独占インタビューを行いました！

藤本敏文先生の役を演じるにあたり、役作りで特に意識されたことはありますか？

以前に藤本先生のことを調べて、本にまとめていました。そのとき、高齢ろう者の方々からお話を伺いました。性格や振る舞い、しぐさ、笑い方など細かいことまで教えてくださいました。昔の様子の映像もあって、藤本先生の手話も見ることができました。落ち着いた感じの手話でした。

もちろん、私的な場では自由に手話で話をされていたみたいですが、公的な場、講演会などでは間をとりながら落ち着いて話されたようですね。そういった細かい癖もよく観察して、頭と体にたたきこみました。

たとえば「わからない」という手話、東京なら手を下から上にはね上げる感じ。でも大阪では上から下へと微妙に動きが違うんですね。「汚い」の手話も違います（関東は掌に一方の手をたたきつける動き。大阪は鼻の横を人差し指でこする動き）。そんな大阪の手話をよく見てまねて覚えました。

朗らかな笑顔でインタビューに応じてくださる那須英彰氏
― 2022月２月撮影 ―

那須さんから見た、藤本敏文先生の人物像や魅力について、教えてください。

藤本先生のすごさは、ビジョンを持った政治家であるところです。頭の回転がはやく、周りを説得できる。オーラがあり、人をひきつける。藤本先生はろうあ運動でいろいろな道を作りました。国会にも乗り込み、厚生省や文部省（当時）とも交渉しました。

藤本先生は厚生省に陳情に行くため汽車に揺られ何度も東京へ向かったのですが、「神宗（かんそう）」という、有名な塩昆布のお店が大阪にありますね。いつもそこの塩昆布を買ってお土産に持っていったので、厚生省の役人さんが「また大阪の塩こんぶ爺さんがきた」とあだ名がついたそうです。

映画「ヒゲの校長」で、特に印象に残っている撮影やシーンはありますか？

撮影はほとんど京都でおこないました。スタッフさんたちや役者の皆さんがわきあいあい、自然と助け合ったりする雰囲気だったので、こちらも楽しく演じることができました。関東から数人がロケに参加しましたが、みんなすぐに溶け込み、仲良く撮影を進めることできました。

本作の見どころについて、教えていただけますか？

一番の見どころは、昭和８年文部省での全国聾学校校長会ですね。そこでは、文部省から口話法で進めるようにとの訓示がありました。ほとんどの学校が口話法を進めていく中、高橋校長が勇気を振り絞って、「手話は必要、ろう者の大切な言葉である」と訴えました。

他の出席者たちの「手話なぞいらない、口話法だけでよい！」との大合唱の中、孤立奮闘の高橋校長を思い起こしてください。あのような厳しい時代の中、大阪市立聾唖学校だけは、高橋校長をはじめ先生たちがスクラムを組んで、ORA（大阪市立聾唖学校方式）、適性教育をがんばっていきました。そのあたりに注目なさってください。

「みみネット」の読者である、聴覚障がいのある子どもたちを担当されている先生方に向けて、メッセージをお願いします。

勉強は、まず楽しく進めるのが一番です。興味を持つと、勉強に集中し、深めることができます。興味を持てない、面白くなければ、勉強の内容も頭に入りません。だから先生方は、子どもたちに興味を持たせる、引き付ける指導をしてください。

子どもたちが、興味を持ってみずから学ぶ姿勢、そんな中で学びを深める。それが、将来大人になったときに、いろいろな力に結びついていきます。

先生方、ぜひよろしくお願いします。

那須英彰さん、ありがとうございました！映画の公開を楽しみにしています！

映画「ヒゲの校長」は、手話・音声・字幕で視聴することができます。
https://camp-fire.jp/projects/view/512454

オンライン授業の実際

―Google meet・Google ドキュメントの活用―

コロナウィルス感染症が流行してから、約２年が経過しました。対面での授業が困難となり、多くの学校でオンライン授業が導入されています。本紙でも、オンライン授業における情報保障のあり方にスポットを当てた記事を、数回にわたり掲載してきました。

今号では、Google meet、Google ドキュメントを用いた、オンライン授業の例を紹介します。

No.299「授業保障―動画に字幕をつける－Vrew」
No.305「オンライン授業（Zoom×UD トーク・Zoom×PowerPoint）」
No.313「オンライン授業×聴覚障がい」
※PowerPoint の字幕機能と画面共有（Zoom・Teams）

右の写真は、中之島にある国立国際美術館と連携し、美術の授業で対話型鑑賞を行っているときの様子です。

本校中学部では、コロナ禍の影響を受けて、校外学習などで美術館を訪れる機会を設けることが難しくなったことを受け、学芸員の方とオンライン接続して、所蔵作品の鑑賞授業を行いました。

Google クラスルームをメインに設定されている学校の場合は、Google meet を用いられている学校が多いかと思います。今回の授業では、Google meet に学芸員の方や鑑賞作品を映し出すとともに、学芸員の方の発言内容は、Google ドキュメントの音声入力機能によって、文字で表示しました。（自宅でのオンライン授業を希望する生徒がいる場合にも、Google meet での授業参加が可能です。）

Google の web ブラウザ（Google Chrome）で meet を立ち上げます

情報保障とコミュニケーション方法

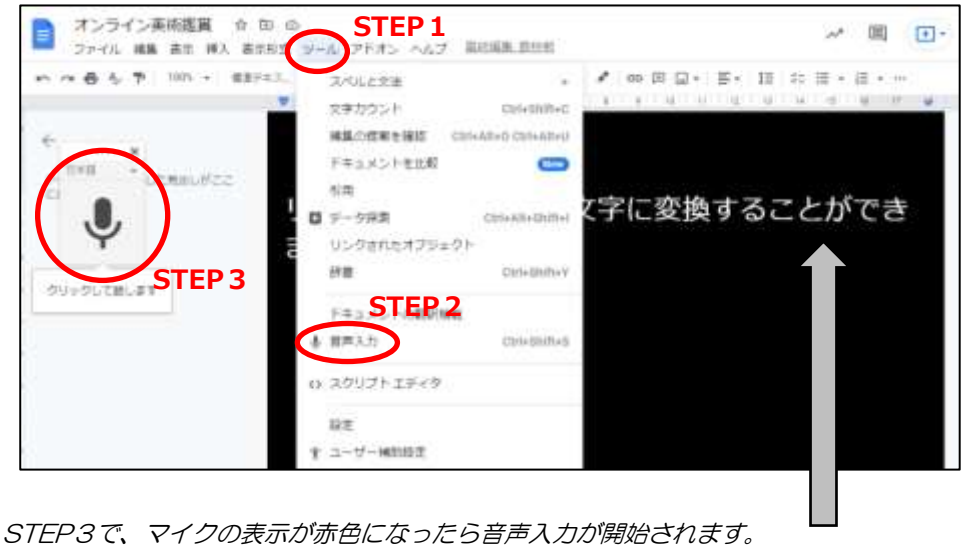
（学芸員 → 生徒）
①口形・表情 ②音声 ③Google ドキュメント（音声文字変換）④手話通訳
（生徒 → 学芸員）
①音声 ②読み取り通訳（手話から音声へ）③チャット

今回行った Google ドキュメントの音声入力（手順）

STEP 1　Google ドキュメントで「新しいドキュメントを作成」をクリック

STEP 2　美術館側と Google ドキュメントのファイルを共有

STEP 3　ツール → 音声入力 →マイク部分をクリック（美術館側）



STEP３で、マイクの表示が赤色になったら音声入力が開始されます。
音声が文字に変換され、双方のドキュメントにリアルタイムで文字が表示されていきます。

美術館と学校をつなぐ形でのオンライン美術鑑賞は、双方にとって初めての取り組みではありましたが、事前の打ち合わせやリハーサルを行うなかで、さまざまな課題を解決しながら、子どもたちにとって必要な情報保障のあり方について、検討することができました。

コロナ禍であっても、オンライン授業の良さを最大限に生かして、子どもたちの学びの場を保障することが、今後、益々重要になってきます。聴覚障がいのある子どもたちを担当されている先生方で、「このような方法が効果的だった！」などの情報がありましたら、ぜひ「みみネット」編集部までお知らせください。

※今回鑑賞した作品はすべて国立国際美術館（https://www.nmao.go.jp/）の所蔵作品です。
オンライン美術鑑賞を行う場合には、著作権について確認する必要があります。

チャレンジ！発音指導 ⑨

母音の指導

重度難聴の子どもでは、母音の発声において、鼻音化（音が鼻に抜けてしまっていること）されることがあります。

特に、母音はその構音が似ている音との間で誤りが生じやすいと言われており、「う」、「お」、「あ」、「え」、「い」の順番で近似しています。つまり、「お」は「う」や「あ」に混同されやすいですが、「え」や「い」と誤ることは少ないです。

また、母音の中でも難易度があります。「あ」「お」「う」は舌が比較的安定した位置で発音するのに対して、「い」「え」は舌の真ん中が少し高くなるように舌の根元と協力して動かして発音しなくてはならず、鼻音化されやすい音です。（障がい音はその発声に最も努力を要しない通鼻音に代用されやすいといわれています）

そのため、「い」「え」は難易度の高い音と考えられています。

次号では、ア音の発音指導について、ご紹介します。

「みみネット」編集部：
大阪府立中央聴覚支援学校　聴覚支援センター　担当：中咲、金森
〒540-0005　大阪市中央区上町１-19-31
TEL. 06-6761-1419　FAX. 06-6762-1800